



# 「こんにちは 市長です」

3月15日号

コロナ感染者も減ってきて緊急事態当初の緊迫感は薄れてきた。都内の人の動きは元に戻っている。いよいよ菅首相の言う「決め手」、ワクチン接種に舞台は移行。計画では3月中に医療従事者の接種が終わって4月から65歳以上の高齢者に移る。そこからが市町村の出番というわけ。2月中旬、医師会の先生たちに私からワクチン接種をお願いした。快く引き受けてくれた。

太田には高齢者が5万8千人いる。取りあえずは5万8千人である。全員が希望するとして、そのための手段、方法をどうするか。いろんな場面を想定して、ひっくり返し元に戻して考えた。医師会の先生にお願いするのに接種までの段取りを提案できなければまずい。廊下をうろうろ、階段を上り下りしながら考える。一般的には「クーポン券が配られた高齢者がかかりつけ医に予約、そして接種」、また別に「集団接種の会場をつくる」ということだが必ず混乱が起こる。そこで私の考えてきたことを先生たちに説明した。市役所が個々人の接種日時と接種するクリニック（医院）を調整するという方法だ。コーディネーター（職員）をクリニックに1人就ける。決められたクリニックにその地域の高齢者を指定の日に案内。コーディネーターはクリニックと高齢者のつなぎ役をする。内ヶ島町は〇〇クリニック、尾島町は〇〇医院ということになる。接種後は車で待機、副反応の有無を確認するのはどうか。車の無い人はタクシー利用もありだ。特別の指摘は無かった。都合のつかなかった人は集団接種になる。

ワクチンが届くのはいつの日か不明だが、3月中には準備を終えたい。（2/22記）